

資 料

平成 19 年度事業計画

2007 年 4 月 1 日

財団法人日本セーリング連盟

平成 19 年 3 月 18 日

財団法人 日本セーリング連盟
平成 19 年度事業計画

平成 19 年度の実業計画の重点項目

普及なくして、強化なし

2008 年北京オリンピック上位入賞を目指し、関係者は競技力向上に余念がありません。この目的を達成するためにはセーリング人口の増大が欠かせません。このため重点事業として以下に列記します。

1. 全国セーリング拠点（ヨットハーバー、マリーナ）の指定管理者制度導入に積極的に取組み、活動本拠の充実を図る。
2. 平成 20 年大分国体より少年男子、同女子種目に中学生 3 年生の導入が決定したので、これを期にジュニアヨットクラブ活動の充実に取り組む。合わせて入門艇である OP 級の普及にも昨年同様取り組む。
3. 平成 20 年度におけるセーリング競技ナショナル・トレーニングセンターの実現に向けて、JOC 及び文部科学省に対して働きかけを行う。
4. 19 年度に行われる各種目の世界選手権において北京オリンピックの出場権を獲得する。
5. 各地のヨットクラブの活性化を促すために外洋艇によるクラブ対抗レースを推進する。また、すでに行われている琵琶湖におけるディンギー 3 クラブ対抗レース等のディンギー系クラブ対抗レースの充実化も推進する。
6. 引き続き、環境キャンペーンを行うと共に、ISAF 100 周年、JSAF 75 周年の記念イベントを実施する。
7. 上記の諸活動と併せて普及活動と密接に連携をとりながら会員増強活動を展開する。

総務委員会（委員長：中山明）

1. 加盟団体、特別加盟団体の義務と権利内容の整備
 - (1) 加盟団体、特別加盟団体の加盟要件の見直しおよび団体の権利と義務などに関連する。公平性や休眠、退会、罰則事項について検討する。
 - (2) 加盟する団体との委託業務契約の締結推進により、組織の業務分担を明確化し、各団体の運営管理状況の把握と情報交換を行う。
2. 諸規程の整備
 - (1) 評議員並びに理事選出方法及び関連規程の再整備を行う。
 - (2) 委員会の業務内容を明確化して連盟運営規則へ記載するよう整備する。
 - (3) 施行済み規程の運用状況の点検と遵守の徹底を図る。
 - (4) 委員会運用ガイダンスを運用規程化するよう検討する。

3. 業務合理化の推進

- (1) 加盟する団体との事務処理方法のIT化を促進するよう、IT委員会と協調して要件整理する。
- (2) 連盟資料のデータベース化を促進し業務内容の高質化、高能率化を目指す。
- (3) 各委員会業務と事務局業務の分担を整理、明確化し堅実で能率の良い運営を目指す。
- (4) 保険制度の内容を検討し加入の促進を図る。

4. 表彰関係活動の充実

- (1) 連盟表彰規程の運用基準を分かり易い内容に改める。
- (2) 外部団体より表彰された会員の表彰記録を整備し組織活性化に活用する。
- (3) 外部への表彰機会を逃さず対応し、セーリング活動を通じた社会的貢献の成果をPRする様に努める。

会計委員会（委員長：鈴木保夫）

1. 各事業の会計報告が速やかにできるようにする。
2. 予算執行の適正な管理する。

財務委員会（委員長：石橋國雄）

1. 健全な財政確保を目的とする。
2. 各方面からの協力者を開拓する

国際委員会（委員長：戸張房子）

1. 国際セーリング連盟（ISAF）会議へのカウンスル、委員を派遣する。
 - (1) ミッドイヤーミーティング 2007年5月4～6日 パリ（フランス）
出席予定者 大谷たかを
 - (2) 年次総会 2007年11月2～12日 アテネ（ギリシャ）
出席予定者 大谷たかを、柴沼克巳、小林昇、戸張房子
2. ORCリミテッド会議へ kongress・メンバーを派遣する。
年次総会 2007年11月2～12日 アテネ（ギリシャ）
出席予定者 山崎達光、小林昇
3. アジアセーリング連盟会議へ JSAF 役員を派遣（開催未定）する。
4. ISAF 創設100周年記念の「世界中のヨットを海に浮かべる作戦」プロジェクトへ協力する（2007年9月1～2日）
5. 国際的な情報収集およびその情報の迅速な提供をする。
6. 日本から海外へ情報発信をする。
7. 競技力向上委員会と協力し、日本でのセーリング普及を推進するために ISAF が始

- めたコネクト・トゥ・セイリング・プロジェクトおよびユース・セイリング・プロジェクトの導入推進をする。
8. オリンピック特別委員会と協力し、オリンピックセーラー育成、ゴールドプラン実現のための国際情報収集・提供。海外MNAとの友好関係の構築・強化、交流の促進をする。
 9. ルール委員会、レース委員会と協力してルールおよびレースマネジメントに関する情報収集、並びにIJ、IU、IRO、IMの育成サポートをする。

広報委員会（委員長：大山俊哉）

1. 「J - SAILING」の編集・発行
 - (1) 「J - SAILING」を年間6回発行とする。
 - (2) 全32ページ、カラーとする。
 - (3) 広報委員会（柳沢編集長）にて自主編集とする。
 - (4) 特に、オリンピック関連の情報の拡充を図る。
 - (5) 発送は「宅配方式」を継続する。
2. ホームページの充実・活用
 - (1) 引き続き、充実を図り、会員への情報提供・交流の場として活用する。
 - (2) JSAFとして必要な情報と、広報的に考えて必要な情報の充実を図る。
 - (3) 特に、オリンピック関連の情報の拡充を図る。
3. 報道機関に対する広報対応
 - (1) 報道機関の「セイリング担当者リスト」の改訂・活用。
 - (2) 報道機関に対するJ - SAILINGの送付。
 - (3) 報道機関とのコミュニケーション・親交を図る。
 - (4) 記者会見等の開催。
 - (5) 広報資料・キットの配布。
 - (6) 「記者懇談会」の実施の検討。
4. 会員への広報活動・メリット還元（J - SAILING / ホームページ以外）
5. セーリング全体の認知・イメージアップのための広報活動
 - (1) メディア・CM等への積極露出。
 - (2) 一般客が多いエリアでのレース観戦・レース告知への協力。
 - (3) 国体・プレ国体等の報道関連協力（報道部副部長）
 - (4) JSAF主催・共催イベント等への協力、広報活動。
 - (5) ボートショーでのイベント開催。

事業開発委員会（委員長：平賀威）

1. 委託販売制度の拡大

各加盟団体、特別加盟団体、各水域ヨットクラブ、各マリーナショップ、業者など。

2. ショップの出店

秋田国体会場、横浜ポートショー会場、加盟団体主催レース表彰式・パーティー会場、加盟団体イベント会場、J S A F 講習会会場、葉山ニッポンカップ、ジャパンカップ、J S A F 新年会、北京オリンピック選手激励会、関東ヨットマンズクラブパーティ会場、その他レースイベント会場など。

3. J S A F ロゴ入り商品の開発

トレーナー、ポロシャツ、T - シャツ、ハイテクインナー、キャップ、タオル、トートバッグ、ライフジャケット、サングラス、アクセサリ、タンブラー、記念品、賞品（カップ、トロフィー、楯）、シーズズグリーティングカードなど。

4. ロイヤリティビジネス（J S A F ロゴマークの使用許諾権）の検討。

5. J - S A I L I N G とのジョイントによるグッズの通信販売。

6. ネットショッピング導入の研究（受注、販売、配達、代金回収）。

7. イベントの開催（企画、運営について検討する）

（1）北京オリンピック選手激励会

（2）I S A F 1 0 0 周年記念事業との連携

（3）J S A F 7 5 周年記念事業との連携

8. 2 0 0 7 年版 J S A F オリジナルカレンダー（小型）の製作検討

9. 月次商品別売上実績、月末在庫の確認および滞留在庫の減額を図る。

滞留在庫（エンサイン（小）ステッカー（ ）、 ）、長ピン（四角）パッチ、クラブバージ、バージ（ベルクロ式）、携帯防水ケース）

環境委員会（委員長：岡田達雄）

「JSAF 環境キャンペーン」も3期目に入り、レースイベントにおける JSAF 環境横断幕の掲揚と、「海にゴミを捨てない」をルール化（帆走指示書に明記）は定着して来ました。一方、レース艇に貼るステッカーは、高コストであるだけでなく使い捨てになるという理由で18年度中に廃止し、海の浮遊ゴミの回収に役立つ JSAF エコバッグに切り替えました。このエコバッグは、普段の買い物などでもレジ袋の代替品として使用できるので、この普及と活用を通じてセーラーたちの環境意識を高めることを今年度の活動の中心とします。

1. JSAF 関連団体主催のレースイベントにおける JSAF 環境横断幕の掲揚と帆走指示書へ「海にゴミを捨てない」ことの明記

2. 上記に追加して全日本大会における JOC 環境横断幕の掲揚

3. エコバッグの無料配布（5000 枚）

2006 年 8 月から導入したエコバッグは、12 月までに 193 枚が販売 されましたが、更なる普及のためには無料配布が望まれます。

エコバッグの販売単価： 500 円、特別販売価格 300 円

エコバッグの製作単価：278.7 円（1000 枚発注時）

内訳：エコバグー一枚 94.8 円

印刷代 183.9 円

例えば、10000 枚のエコバッグを配布するには約 300 万円のコストがかかるため、エコバッグのコストダウンと、JSAF 環境キャンペーン スポンサーの追加獲得が必要となります。今年度は、スポンサー獲得状況に応じて、目標を 5000 枚の配布とします。

- 4 . J-Sailing 紙面における「JSAF 環境キャンペーン」参加イベントの紹介
- 5 . JSAF 事務局における ISO14001（環境マネジメントシステム規格）の取得の検討

レース委員会（委員長：名方俊介）

- 1 . レースオフィサー認定講習会（試験）の実施
- 2 . レースオフィサー等有資格者のためのレース運営セミナーの開催
- 3 . 外洋艇レースマネジメント・マニュアルおよびトレーニングキットの作成、ならびに外洋艇レースオフィサー特別認定講習会の企画（外洋統括委員会と共同で）
- 4 . レースオフィサー・トレーニングキットの改正と充実（CRO、NRO および ARO）
- 5 . 競技大会へのレースオフィサーの起用システムと支援体制の確立
- 6 . ヤードスティック・ナンバー（2007年版）の発表
- 7 . チームレースの普及、支援活動
- 8 . マッチレースの普及、支援活動
- 9 . 管理水面における安全対策及び危機管理マニュアル等の充実
- 10 . レース運営の省力化、記録・成績表作成作業の効率化及び近代化の研究
- 11 . J S A F 共同主催・主催・公認レースに対する指導・支援体制の構築
- 12 . その他
- 13 . 上記各事業達成のためのレース委員会活動

レースオフィサー小委員会（委員長：長塚奉司）

- 1 . レースオフィサー制度の維持・管理（資格更新等の検討、レースアドバイザー制度の確立を含む。）
- 2 . 更新講習会、認定講習会、試験の計画と実施（講師の養成を含む）
- 3 . レースオフィサー等有資格者のためのレース運営関連セミナーの計画と実施
- 4 . 外洋艇レースオフィサー特別認定講習会の実施と資格管理（外洋統括委員会と共同で）
- 5 . レースオフィサー・トレーニングキットの改訂、充実と管理（CRO、ARO および NRO）（レースマネジメント小委員会と共同で）

6. 競技大会へのレースオフィサーの起用システムと支援体制の確立
7. I S A F インターナショナル・レースオフィサーに関する情報の管理等
8. その他

レースマネジメント小委員会（委員長：大原博実）

目標：広告及び主催に関して、ルールに基づいたレースが全国展開されることを目標とする。

1. 重点的取組み事項

- (1) J S A F 共同主催・主催・公認レースに対する指導・支援
- (2) 広告規定（主催者広告と個人広告）に関しての手引書の充実および適切な広告運用の啓蒙
- (3) 全日本大会等の J S A F 公認審査について、事前審査システムの制度化
- (4) 記録作業の効率化と近代化、成績表作成ソフトの充実とその管理、運用
- (5) レースオフィサー小委員会等と連携して、改訂ルールに基づくレースマネジメント・マニュアルの研究
- (6) 広告カテゴリーを中心に各クラスルールの収集整理、研究
- (7) レーシングシグナル補追版について研究

2. 継続的取組み事項

- (1) 管理水面における安全対策、および危機管理マニュアル等の充実
- (2) レース公示、帆走指示書、大会運営マニュアルの研究
- (3) ヤードスティック・ナンバーの調査、研究、普及
- (4) I S A F に対する J S A F レース委員会からの質問及び提言
- (5) ホームページ、J - S A I L I N G 掲載記事、ホームページ Q & A 掲載用回答の作成

チームレース小委員会（委員長：松原宏之）

1. レース運営全般の調査、研究（レースマネジメント小委員会と連携）
2. チームレースの指導育成と普及
3. 担当レースオフィサーの育成
4. 全日本大会・帆走指示書ガイドの作成
5. その他

マッチレース小委員会（委員長：一木正治）

1. レース運営全般の調査、研究、普及
 - (1) マッチレース・セミナーを開催（J Y M A 主催）
 - (2) ユースの育成（具体的な計画は現在検討中）

2. マッチレース・マネージメント・マニュアルの完成と充実
(1) 海上運営部分は一応完成しているのでこの充実を図るとともに、パート2としてレース企画・開催等大会運営部分を作成予定。
3. 担当レースオフィサーの育成
(1) 個々に希望者を募りながらマッチレース実戦の場でOJTを行う(セミナーの開催は昨年度の実績から見て不可能だと判断)。
4. 全日本大会・帆走指示書の雛形作成と充実
5. JSAFと当該協会等の連絡、調整
6. その他

ルール委員会 (委員長: 川北達也)

1. ルール関連資料邦訳発行
「ISAF規定」の新年度邦訳版および「RRS」「CASE BOOK」「MATCH RACE CALL BOOK」「TEAM RACE CALL BOOK」の補遺版発行
2. ルール関連書邦訳(ジャッジマニュアル/アンパイアマニュアル)
最新版のジャッジマニュアル/アンパイアマニュアル邦訳版の発行、頒布(販売)
3. 国内IU/IJ育成支援、アジア地区ジャッジアンパイア養成支援
若手(60代前)IJ/IU候補の、海外レースに派遣する渡航補助
4. 各種ルール講習会開催
(1) アンパイア認定講習会(6月)
(2) A級ジャッジ認定講習会(8月)
(3) ジャッジセミナー(2月)
5. B級ナショナルジャッジ認定のための付帯業務
(1) 各加盟団体へ試験問題を提供
(2) 申請者に対する資格照合と認定証発行送付業務の実施
(3) 認定証の発行
6. JSAF主催大会へのジャッジ派遣
国体、リハーサル大会、オリンピックウィーク、ナショナルチーム選考、ジュニアオリンピックへのジャッジ指名
7. JSAF-Web/J-SAILINGのルール情報展開
会員に提供するルール関連情報を、より見やすいレイアウトへ変更
8. ISAFへの次期RRSへのサブミッション提出
ルール委員会にて内容を検討し、理事会にて承認の上、ISAFへ提出
9. RRS改定準備
外部有識者を含めた検討会の開催

10. ジャッジ制度見直し検討
2年間をかけて国内のレースオフィシャルズとの認定資格制度の整合を図る委員会を
またぐ検討会の実施
11. ルール講習会支援
地方水域でのルール勉強会支援（講師派遣）
12. ルール委員会会合費補助
地方水域委員への年1回の交通費半額補助

ワンデザインクラス計測委員会（委員長：末木創造）

1. ワンデザインクラス計測委員会の拡充
2. 各クラス協会等との関係の調整と確立
3. ワンデザインクラス計測委員会のホームページの立ち上げ
4. ワンデザインクラス公式計測員規程の施行
 - (1) 各クラス公式計測員の承認・認定証の交付と名簿管理
 - (2) ERS講習会の実施
 - (3) 各クラス等ERSに基づくオフィシャル・メジャーの承認・認定証の交付と名簿管理
5. JSAF運営規則・ディングー系全日本選手権大会に基づく計測条項実施のための各クラス計測用紙（計測項目等一覧表）の作成
6. 国体及びリハーサル大会の計測部員の推薦
7. その他

競技力向上委員会（委員長：箱守康之）

1. ジュニア・ユース競技力向上事業
 - (1) 海外派遣事業
 - ア. 2007年度ワールドユース選手権大会派遣
2007年7月12～21日 カナダ（キングストン）
 - イ. 470ジュニアワールド選手権大会派遣
2007年7月21～29日 ブルガリア（ポートブルガス）
 - ウ. レーザーラジアル級ユース選手権大会派遣
2007年8月4～11日 オランダ
 - (2) 国内強化事業
 - ア. 2007年度ワールドユース派遣候補選手強化合宿兼代表最終選考会
2007年5月3～5月6日（佐賀県唐津予定）
 - イ. 470ジュニアワールド日本代表選手選考会
東日本エリア（日本470協会/学連と調整中）

西日本エリア（日本４７０協会／学連と調整中）

ウ．ワールドユース代表選手強化合宿

２００７年６月１６～１７日（ＪＩＳＳ）

エ．２００８年度ユースナショナル候補チームの認定

２００７年５月開催、ＪＯＣジュニアオリンピックカップ、１０月開催ＪＳＡＦオリンピックウィークおよび競技力向上委員会、艇種別協会の推薦により決定

各水域で実施するジュニア／ユース対象の大会により決定

オ．同ナショナル候補チームの強化合宿

２００８年３月上旬（佐賀県唐津予定）

２００８年３月下旬（静岡県三ヶ日青年の家予定）

２００７年３月中旬（唐津および浜名湖で開催予定）

* オリンピック特別委員会と連携したＮＴトップ選手による指導

（３）国内大会およびクリニックの開催

ア．ＪＳＡＦオリンピックウィーク

２００７年９月１４～１６日（神奈川県江ノ島）

イ．ジュニアオリンピックカップ（ＪＳＡＦユースチャンピオンシップ）

２００７年５月３～６日（佐賀県唐津）

（４）ジュニア・ユース有望選手発掘事業（ゴールドプランの推進）

ア．全国高等学校選手権（インターハイ）、ジュニアオリンピックカップ、全日本大学選手権およびＯＰ全日本選手権大会時に将来性を有する有望選手の発掘を行う

イ．各年齢層の有望選手データバンクの整備（全国対象）

ウ．各水域での一貫指導推進の指導者リストの整備（全国８水域）

２．インターナショナルカテゴリーの推進

（１）世界の基準に合致した年齢別カテゴリー（Ｕｎｄｅｒ １５、Ｕｎｄｅｒ １９、Ｕｎｄｅｒ ２２、Ｏｖｅｒ ２２）の推進と国際艇種での合宿、イベントの推進

（２）カテゴリー別トレーニング方法の普及啓発活動

３．指導者マニュアルの完成に伴う指導体制づくり

（１）指導者講習会の実施

２００６年度ＪＳＡＦ主要競技会開催時（インターハイ、国体、オリンピックウィーク、ＯＰ全日本、全日本インカレ等）に各指導者を対象に上記指導者マニュアルに基づいた一貫指導システム研究会を開催

（２）ゴールドプラン水域指導者研修会の実施

（３）オリンピック特別委員会と連携したＮＴ強化合宿でのエリア指導者研修の実施

（４）海外コーチ招聘ユース強化合宿時ＶＴＲの完成

4. オリンピックウィークの開催

ジュニアからトップアスリートまでが一堂に会する JSAF 主催の国際大会を目標に、競技力向上委員会が主導を持って開催する。

5. 医事・科学委員会と連携した医科学サポートの実施

(1) 身体成長期のジュニア・ユースに対して以下のサポートを実施

- ア. 医科学サポート
- イ. フィットネスサポート
- ウ. トレーニングサポート
- エ. 栄養サポート

(2) アンチドーピング活動

有望選手発掘事業および地域指導者講習会時にアンチドーピング啓発活動を実施

6. その他

競技力向上委員会ホームページの整備と活用促進

指導者委員会 (委員長: 柵橋善克)

1. 公認指導員養成講習会を開催する。

- (1) 公認「コーチ」、公認「上級コーチ」養成講習会の開催
- (2) 公認「指導員」養成講習会の開催(大分県)
- (3) 指導者講師研修会の開催(静岡県三ヶ日)
- (4) 全国安全指導者講習会の開催(東京都夢の島)

2. 全国安全指導者会議を開催する。

- (1) 理事・役員の積極的参加をお願いし、連盟全体での取組みを発展させる。
- (2) 笹川財団、B & G 財団、日本舟艇工業会とより密接な連携をとり、魅力ある会議とする。

3. バッチテストシステムの検討

- (1) 18年度に引き続き、以下のことを検討する。
- (2) 現システムの長所を生かしつつ、セーリングに携わるすべての者が保持することに誇りを持てるようなシステムの構築を検討する。
- (3) バッチの取得をきっかけとして、セーリングの普及が図られ、さらに日本セーリング連盟のメンバーになることにも誇りをもてるようなシステムとなるよう検討する。

レディース委員会 (委員長: 倭千鶴子)

1. 「セーリング体験」

- (1) 例年通り、一般の方々の参加者を新聞、ラジオを媒体に募集し、まったくセーリングに関わった経験のない方、女性、ジュニア、中高年を対象としセーリング

人口の増加、普及に努める。

(2) リピーターの対処について万全を計る。

(3) 実施内容

平成19年7月中旬予定

人員 参加者 約100名

講師 30名

スタッフ 10名

使用艇 ヤマハ30フィート、クルーザー、ボード

2. 「チャイルドルーム」

(1) 平成19年秋田国民体育大会にて実施

(2) 平成19年大分国民体育大会リハーサル大会にて実施

(3) 実施内容

場所 セーリング競技会場

人員 レディース委員 2名

保育士 5～6名

3. 対外活動

(1) JOCウーマンズ委員会、トータルオリンピックレディース委員会等に積極的に参加し、今後のレディース委員会の発展のため学習する。

(2) 2006年5月熊本で開催された「2006世界女性スポーツ会議くまもと」に参加した成果を今後に生かし、レディース委員会も世界レベルで活躍できるよう向上に努める。

4. 国際委員会との連携により、ISAFウイメンズコミッティより迅速な情報を得、女性役員のある方、継続性、女性選手の普及に努め、またアジアにおける支援を継続する。

5. 今後とも女性の目線で熟考し、新しい企画を発案し、JSAFの発展に貢献する(例えばセクシャルハラスメントについて等)。

医事科学委員会 (委員長：上原一之)

1. アンチドーピングに関する事項

(1) 競技会における救護に関する事項

(2) 安全の講習に関する事項

(3) 海外派遣選手に対する医学的指導、医師帯同に関する事項

(4) 公認スポーツドクター、公認トレーナーに関する事項

(5) トレーニングに関する事項

(6) 選手の栄養に関する事項

2. その他特命事項

外洋統括委員会（委員長：古川保夫）

新年度については、委員会内の一部組織の見直しと人事の入れ替えを行い、今後の外洋統括委員会の組織的かつ人的強化をはかる。当委員会は健全なる外洋の一層の発展を目指すとともに、ディンギー系各組織との友好・理解を深めることも視野に入れて J S A F 新体制をサポートする。（委員長については変更の可能性もあります）

外洋技術委員会（委員長：林賢之輔）

1. I S O 基準の導入にともない、日本小型検査機構（J C I）が所管する全長 2 4 m 未満の帆船に適用される諸規則との整合性を検討し、意見具申をする。

外洋計測委員会（委員長：林賢之輔）

1. ヨットレースを活性化するため、I R C レーティングルールを導入する。本年度のメインテーマとして、積極的に支援する。このために、I R C 委員会を設置し、I R C レーティング・オフィスを設け、メジャラーを養成し、各加盟団体に I R C 担当者を配備し、円滑な運用をはかる。
2. I M S および O R C - C l u b については、前年度のとおり日本 O R C 協会（O R C A N）に一任する。
3. P H R F を含むその他のレーティングルールについては、要請があれば積極的に支援する。

I R C 委員会（委員長：鈴木一行）

外洋系の国際レーティングである I R C レーティングを 2 0 0 7 年 1 月から日本での運用を正式開始する。外洋系の I R C レーティングの円滑な発行とレーティングを公正に運用することで外洋系ヨットレースのさらなる普及をはかる。

1. スムーズな発行
 - （1）I R C 委員会の組織化
 - （2）I R C 協力体制の整備（I R C テクニカルコミッティー、メジャラー、アドバイザー）
 - （3）I R C レーティングオフィスの開設
2. レーティングの公正な運用
 - （1）I R C ルールの整備（I R C ルール、I R C 計測マニュアル）
 - （2）I R C レーティングの技術講習会
3. 普及活動
 - （1）外洋加盟団体との連携による I R C レーティングの普及活動
 - （2）J S A F ホームページ、J - S A I L I N G による情報の整備

外洋海事思想普及委員会（委員長：都築勝利）

昨年、外洋統括委員会ならびに外洋加盟団体長会議に提案した「外洋加盟団体旗」作成について、引き続きその作成実現を目指す。外洋セーラーの連帯をはかる。

外洋公式レース委員会（委員長：稲葉文則）

現在策定作業を続けている懸案のジャパンカップ開催規定の早期完成を目指す。本年度年関西水域にての開催とも合わせ、関係者による協議をおこない、既存の外洋レース諸規則との整合性も図り、充実した規定としたい。

外洋安全委員会（委員長：浪川宏）

- 1．外洋安全思想の普及
- 2．特別規定の普及
- 3．各水域での特別規定B講習会の実施促進
- 4．小型船舶検査と特別規定カテゴリー宣誓との関連調整
- 5．特別規定カテゴリー登録の促進
- 6．安全トレーニング制度の拡充

外洋通信委員会（委員長：足立利男）

- 1．法規委員会と連携し特に国際VHF無線に対する緩和の要請（開局時手続きと機器類）
- 2．将来構想であるAISシステムの構想作成に向けてISAFと連携、概案作成。
- 3．既存VHF無線局設備の適正な維持及び運営及び県連と連携しディンギーレースへの使用、機器貸し出し
- 4．VHF通信利用の普及促進利用の啓蒙 講習会の企画と開催
- 5．国土交通省プレジャーボート携帯電話安全通信の普及計画策定

外洋法制委員会（委員長：渡辺康夫）

- 1．全国外洋艇体験乗船の規則の普及
- 2．日本小型船舶検査機構（JCI）関連項目
定期的な会議（小型船舶関係懇談会、年数回）を行う
小型船舶検査に関し世界の標準と日本の特殊性について徹底的に議論すると同時に相互理解を高める。
- 3．国土交通省のプレジャーボート安全利用情報システムの構築に答申する
- 4．小型船舶備品の規制撤廃と、製品供給に関するキャンペーン
（1）DSC付き国際VHF無線機の認定とオペレータ免許制度の根本的改革
（2）将来、小型船舶に適用されるAIS（小型船舶自動認識システム）の日本固有の普及構想

- (3) SOLASレーダー仕様の変更に対応する小型船舶用レーダートランスポンダー
 - (4) ISO, ISAF仕様変更に対応する小型ライフラフトの国外製品認定
 - (5) 小型船舶用ライフラフト搭載パーソナルEPIRB
 - (6) 小型船舶用の発煙信号、パラシュートフレア
 - (7) MOB (転落) 救出用ライフスリング
- 5 . 国際海洋汚染防止条約の規制が世界では高まっている、日本セーリング連盟としての海洋汚染、環境対策への対応と啓蒙
 - 6 . 係留保管場所確保への対応
 - 7 . FRP廃船リサイクルユース、廃船処理に向けた対応

外洋ルール委員会 (委員長 : 大村雅一)

ルール委員会と連携し、外洋艇に関わる諸ルールについて検討・研究する

外洋新規事業委員会 (委員長 : 平賀 威)

外洋海事思想普及委員会と連携し、「外洋加盟団体旗」作成について検討する

外洋国際化委員会 (委員長 : 鈴木一行)

- 1 . RORC 総会への担当者派遣
- 2 . ISAF 創設 100 周年記念の「世界中のヨットを海に浮かべる作戦」プロジェクトへ協力
- 3 . 国際的なセーリング情報収集およびその情報の迅速な提供を行う。

外洋セイルメジャラー部会 (委員長 : 八木達郎)

- 1 . JSAF セイルメジャラー部会臨時総会及び更新講習会の開催
- 2 . 近年の ORC・IRC の動向に対して 2 年に 1 回の総会を 1 年に 1 回にする案 (含む講習会) 等の内部規定の見直し
- 3 . 新規会員のレポート及び研修期間 (講習) の確認及び登録
- 4 . JSAF ERS 認定員制度について説明
- 5 . ERS 講習会を実施し、セイルメジャラーの ERS 登録の承認を得る
- 6 . IRC 2007 改正に伴い、セイル計測講習会を実施し、IRC セイルメジャラーの登録の承認を得る
- 7 . ORC 2007 改正に伴い、セイル計測講習会を実施し、ORC セイルメジャラーの登録の承認を得る
- 8 . 上記各委員会ならびに協会に、新規名簿の提出をする
- 9 . IRC・ORC のセイル計測マニュアルの改正

特命チーム

普及委員会（委員長：水谷益彦）

日本財団助成事業である

- 1、ファミリーレース
- 2、ジュニア・障害者・レディスセーリング体験
- 3、教職員指導者養成講習会

の3事業を各加盟団体に委嘱実施し、セーリングの普及を図る。

ファミリーレース	8箇所
ジュニアセーリング体験	3箇所
障害者セーリング体験	3箇所
レディスセーリング体験	1箇所
教職員指導者養成講習会	2箇所
合計	17箇所

関係組織協力委員会（委員長：大庭秀夫）

1. 国体開催期間の変更に伴い各クラス別協会における影響と日程の調整。
2. ヨット普及を考えヨットの楽しさ、ヨットレースの面白さを一般に広めるための方法を模索し、時にはメディアを使い各団体の理解と協力で事業を考える。
3. ヨット普及に伴い会員の増強を図る。
4. ゴールドプランにあるように、ジュニアから一般までの一環強化システムの構築を関係団体と調整し確率する。
 - (1) ジュニアクラブレースへの協力体制づくり
 - (2) クルザーレースの協力方法の検討
 - (3) ウインドサーフィン大会への協力方法の検討
 - (4) 高体連、学連との調整 他
 - (5) 各クラス別協会との調整
 - (6) 各県連、クラブ等の行事への協力方法の検討

IT対策委員会（委員長：前田彰一）

平成17年度から適用が開始されたJSAF「メンバー登録および管理システム」の更なる活用を旨とす。平成18年度は、加盟団体のメンバー登録管理担当者、総務委員会・ルール委員会・レース委員会などから意見を聞き、入金表示など一部システムを改良した。今年度は、受付から入金確認までのタイムラグの解決およびレース参加者のチェックの効率化はかるべくシステムの改良を検討する。また、将来のデジタル社会の到来を踏まえ、ナショナルトレーニングセンター構想の討議に参加して、インターネットを利用した競技力向上や会員とのコミュニケーションによるSAF活動の活性化を検討する。

1. 連盟基本資料のデータベース化への取り組み

会員増強委員会（委員長：伊藤宏）

会員増強の一番の施策は、普及活動の充実であることを考え、普及活動を推進・展開している普及委員会や都道府県連盟等、諸団体との連携を強化する。

B & G 海洋センター支援チーム（委員長：占部雄三）

B & G 海洋センター支援チームは平成 17 年度に発足した委員会で日本セーリング連盟・B & G 財団・日本OP協会が協力して B & G 海洋センターの活性化を主目的とした委員会であります。初年度は試験的に 3 回実施し 2 年目の昨年度は全国 10 ブロックで 10 箇所の海洋センターで各県のセーリング連盟が協力して OP ヨット体験事業を実施した。

1. 実施内容

- (1) B & G 海洋センターの室内プールでプールサイドに 6 台の送風機で風を送り、小中学生を OP に乗せた。
- (2) 施設と機材は B & G 財団・講師は J S A F が小松講師を派遣・送風機と活動費は OP 協会が負担（文部科学省の夢子供基金を活用）して実施した。

18 年度実施の結果は非常に好評だったことで 19 年度も 10 箇所で実施することになり、3 月に B & G 財団が選定する 10 海洋センターを対象に 18 年度と同様の内容で実施する予定で、1 月 19 日に B & G 財団会議室で B & G 財団の広渡専務と J S A F 昇専務出席で今年度の検証と来年度の計画を策定する。3 月実施場所決定後、4 月行動計画の策定、8 月に中間検証、11 月に最終検証と次年度の策定の 3 回会議を予定。出席者は J S A F 占部・小松、OP 協会・国見他 1 名、B & G 財団・細井次長他 1 名の計 6 名。

特別委員会

オリンピック委員会（委員長：河野博文）

オリンピック特別委員会（以下オリ特委と称す）は、北京五輪でのメダル獲得、複数種目の入賞を達成目標に、五輪種目の艇種別候補選手の競技力向上を図るために策定した重点方針に基づき事業を実施します。

オリ特委は、選手を含め相互の努力によって目標達成ができる組織体制と、J S A F ゴールドプランに基づき世界の上位で戦える日本セーリング界の構築が大きな目標であります。

1. 重点方針

- (1) 北京五輪でのメダル獲得と複数種目の入賞
- (2) カスカイス I S A F ワールド チャンピオンシップにおいてオリンピッククラス全

種目国別参加枠の獲得

- (3) 選手が強化活動をスムーズに行える環境の整備と体制造り
- (4) JOCゴールドプランに基づく次世代を担う選手の育成・強化
- (5) 事業別予算・実績管理の徹底と効率的な資金計画・運用

2. 組織・役割

- (1) 名称：北京オリンピック特別委員会
- (2) 組織：オリンピック特別委員にマネジメント委員会、強化事業委員会、指導・評価委員会の三委員会を設けます。
- (3) オリンピック特別委員長および上記各委員会の委員長、副委員長から強化統括委員会を設置し、強化計画の立案などに当たります。
- (4) 経験、学識、専門的知見を持つ方にアドバイザーを委嘱する予定です。
- (5) アテネオリンピックに向けて行った募金活動を継続して行う委員会を別途設けません。
- (6) 各委員会の主要業務は以下の通りです。委員会では随時役割や目標の達成度から見直しを行い、より良いシステムを構築していきます。

<強化統括委員会>

強化統括委員会委員長はオリ特委員長が兼務、委員会構成は管下3委員会の委員長・副委員長とし、下記の強化事業全体の計画立案を行います。

- 1. オリンピック代表選手のJSAF理事会への推薦
- 2. 五輪キャンペーン全体事業計画の企画立案(強化重点施策、スケジュール、海外遠征、強化合宿、チーム、コーチ招聘、NT基準・選考等)
- 3. 北京五輪までの中長期予算計画の立案
- 4. JSAFゴールドプランの企画/実行/推進施策の立案(競技力向上委員会との連携)
- 5. 北京五輪会場(青島)の現地調査チームの設立(気象、ベースキャンプ地/宿舎、ショップ・ポートヤード等)
- 6. 選手の技術習得評価方法・基準の作成
- 7. JOC方針に合わせた調整、JSAF方針の検討
- 8. JISS(国立スポーツ科学センター)との連携
- 9. オリンピック強化アドバイザーとの窓口

<マネジメント委員会>

- 1. オリンピック特別会計の事業予算策定および実績の管理/修正
- 2. JOC、スポーツ振興基金、toto等の情報収集 補助金の折衝、申請、予算運用管理および事業報告書の作成
- 3. 海外遠征、国内合宿、ナショナルチーム選手、強化対象選手のデータ管理等

4. 強化事業全体マネジメント（計画、経費、物流、移動手手段、その他）
5. 海外遠征における危機管理
6. 海外、国内情報の収集と提供
7. メディア対応と広報活動（インターネット / ホームページでの告知、広報管理）

< 強化事業委員会 >

1. 各コーチとの情報交換・連携・調整および意向確認
2. 強化合宿の実施
3. 海外選手・コーチ招聘事業、海外派遣事業の実施
4. ナショナルチーム選考レースの実施
5. 艇体、セール、ギア類のテストと評価（データー分析）

< 指導・評価委員会 >

1. オリンピック種目艇種別協会との情報交換・連携・調整および意向確認
2. オリ特ランキングシステムの実施
3. 艇種別協会との調整
4. 海外遠征成績の分析
5. 選手の技術レベル向上を図るコーチングテクニックの向上
 - (1) 他競技団体の方法論の情報収集
 - (2) 海外コーチの指導方法の研究
 - (3) コーチ学文献の情報収集

3. 平成19年度事業計画

平成19年度は重点方針に沿い、関係団体並びに各委員会と連携し、選手が強化活動をスムーズに行える環境作りの整備を第一に以下の事業に取組みます。

1. 海外派遣事業

(1) JOC 委託事業

(2) スポーツ振興基金重点強化助成事業

ア. ISAFワールドチャンピオンシップ派遣

6月28日～7月13日ポルトガル・カスカイス

以下のオリンピック種目 NT 選手を派遣オリンピック参加枠獲得を目指す。

- ・470級（男女）
- ・レーザー級
- ・レーザーラジアル級
- ・49er級
- ・RS-X級（男女）

・イングリグ級

・スター級

イ．ヨーロッパ遠征派遣 …… 4・5月 ヨーロッパ各国（スペイン、フランス）

ウ．海外強化合宿 …… 5月 ヨーロッパ各国、8月 中国・青島

エ．プレオリンピック派遣 …… 8月10～25日 中国・青島

オ．2008年オリンピック種目世界選手権大会派遣

オリンピック代表最終選考として以下の世界選手権大会へ派遣

・470級（男女）… 1月21～30日 オーストラリア・メルボルン

・レーザー級 …… 1月末 オーストラリア・シドニー

・レーザーラジアル級… 2月初旬 ニュージーランド・タカプーナ（予定）

R S：X級（男女）… 1月10日～20日 ニュージーランド・オークランド

・49er級 …… 1月2日 - 9日 オーストラリア・シドニー

・イングリグ級 …… 1月中旬 米国・マイアミ

・スター級 …… 々

（3）スポーツ振興基金助成事業

ア．ISAFワールドユース選手権大会派遣 … 7月12日 - 21日 カタ・キングストン

イ．470ジュニアワールド選手権大会派遣 … 7月21日 - 29日 ブルガリア・

ポートブルガス

ウ．レーザーラジアルユース選手権大会 …… 8月4日 - 11日 カタ・キングストン

*上記3事業は「競技力向上委員会」と連携した次世代を担う選手の育成・強化事業

2．国内強化事業

（1）JOC委託事業

（2）スポーツ振興基金重点強化助成事業

ア．ナショナルチーム強化合宿

オリンピック種目2007年度ナショナルチーム強化合宿

イ．JISS（国立スポーツ科学センター）を利用したナショナルチームフィットネス合宿

ウ．海外優秀選手招聘合宿（オリンピック種目）

*補助金申請

海外派遣事業および国内強化事業についてJOCまたはスポーツ振興基金のどちらに補助申請するかは今後、補助金支給団体との折衝によって決定します

（3）スポーツ振興くじ（toto）助成事業

ア．アンチドーピング推進（啓発・検査）事業

*本事業は「医事・科学委員会」と連携した事業

イ．将来性を有する選手の発掘、育成・強化事業

*本事業は「競技力向上委員会」と連携した次世代を担う選手の育成・強化事業

3. 自主計画事業

- (1) オリンピック会場(青島)継続事前調査事業 …… 青島ベースキャンプの確定
- (2) 青島気象データ収集・調査事業
- (3) 2008年ナショナルチーム選考会
- (4) 国内強化活動事業
- (5) 海外強化活動事業
- (6) 海外遠征支援業務
- (7) 管理関係業務

4. その他

- (1) オリ特ホームページの充実
- (2) ランキングシステムの推進

国体委員会（委員長：昇 隆夫）

1. 第62回国民体育大会秋田国体セーリング競技の準備を推進し、競技方法及び大会運営方法について検討を進め同大会を開催する。
2. 大分国体リハーサル大会の準備を推進し、大会開催について支援する。
3. 第63回国民体育大会大分国体セーリング競技の大会開催の準備を推進する。
4. 新潟、千葉、山口、岐阜等の国体開催予定地の準備を支援する。
5. 中央競技団体として国体開催予定地の視察及び指導・助言を行う。
6. 少年男女の種目に秋田国体から導入したセーリングスピリッツ級について支援する。
7. 少年男女の種目に中学生の参加を大分国体から導入することを推進する。
8. 平成20年大分国体から導入するブロック大会について検討を進める。
9. 日体協改革に合わせ国体及びリハーサル大会の簡素化を進める。
10. 各都道府県連盟に国体参加資格規定の周知を行う。
11. 国体ウインドサーフィン級、セーリングスピリッツ級の普及活動を支援する。
12. 国体艇種の大会開催について支援をする。
13. 国民体育大会セーリング競技研修会を開催する。
14. 国体ウインドサーフィン級の年度登録及び管理を行う。

アメリカズカップ委員会（委員長：山崎達光）

2011年（予定）第32回アメリカズカップへの挑戦構想の検討、協力関係者との接
渉。資料・情報の収集。